アメニティ便り９月号

2016 年 9 月　認定特定非営利活動法人アメニティ 2000 協会

662-0833 西宮市北昭和町 3-20　TEL&FAX　0798-65-4303　携帯 080-3138-4164
E メール　soshisha@f6.dion.ne.jp　ホームページ http://amenity2000.la.coocan.jp/

お知らせ

＃上期セミナー　9 月 10 日（土）　草志舎
＃畑儀文の合唱教室　9 月 12 日（月）　草志舎
＃親子草木染教室　10 月 8 日（土）　ヴォーリズ六甲山荘
＃下期セミナー　建物の保存を考える in Tokyo　10 月 15 日（土）　静岡
＃ほりだし市　11 月 3 日（木・祝）　草志舎
＃アンサンブル・アメニティ結成 10 周年記念コンサート　2017 年 1 月 29 日（日）　カトリック芦屋教会

シンポジウム「ナショナル・トラストの可能性」特集

8 月 8 日（月）～10 日（水）於　ヴォーリズ六甲山荘

盛会の 3 日間でした。シンポジウムの参加者は 8 日は 22 名、9 日は 21 名、10 日は 11 名でした。ワークをとりいれたのもナショナル・トラストの実体験ということで喜んでいただけました。

ナショナル・トラストをテーマとした初めてのシンポジウムでしたが、充分な手ごたえが感じられました。これを次回へとつなげていきたいと考えています。

詳しい報告は次の「コラム」をご覧ください。

【コラム】　　シンポジウムは実りある 3 日間でした

アメニティ 2000 協会の基本理念であるナショナル・トラスト活動についてのシンポジウムの開催は参加者にとっても、主催した協会にとっても意義あるものでした。

講師と演題はつぎのとおりです。

清水順子（アメニティ 2000 協会事務局長）　「ナショナル・トラストについて～英国、日本、諸外国」
清水彬久（アメニティ2000協会理事長）「ナショナル・トラスト運動の試み～アメニティ2000協会の歩み」
山本真沙子　（東京工業大学博士課程）「英国トラスト活動において参加者が感じている価値」
頴原澄子（千葉大学大学院准教授）「ナショナル・トラストの可能性」
米津寛司（兵庫県立舞子公園旧武藤邸館長、一級建築士）「登録有形文化財の課題　維持管理の問題点」
岡崎行師　（弁護士）「ナショナルトラスト法のない日本でできること、できないこと」

いずれもナショナル・トラストの実像を語り、現在の日本での状況を語るすぐれた内容でした。

またナショナル・トラストの柱のひとつである、ボランティアによるプロパティの維持活動を体験するワークも好評でした。今回は板壁のベンガラ拭きこみを行いましたが、自分の手で文化財を手入れするというのはめったにない経験で、印象深かったようです。

今回の特徴は大学院生が 5 名参加してくれたことです。はるばる千葉大学から頴原先生の教え子が 2 名、京都大学から中嶋節子先生の教え子が 3 名です。若い人たちがナショナル・トラストに関心をもってくれるのは、とても心強く希望のもてることです。

３日間のスケジュールをささえてくださったスタッフの皆さん、お疲れさまでした。メニューづくりから買出し、調理、あと片付けと食の一切を引き受けた厨房担当、朝晩講師や参加者の送迎に山を上り下りした車担当、ピザを何枚も焼きつづけた窯焚き担当、ベンガラ拭きのためにたくさんの T シャツを送ってくださった方々・・そして参加者も講師の先生方もいつのまにかスタッフ化して、あと片付けまで手伝ってくださるというのが、いかにもアメニティらしい終わり方でしたね。皆さん、ありがとうございました。

清水彬久氏

清水順子氏

山本真紗子氏

頴原澄子氏

米津寛司氏

岡崎行師氏

参加記・1

成瀬ひな子（千葉大学大学院生）

8 月 8 日から 8 月 10 日にヴォーリス山荘で行われたシンポジウムに参加致しました。シンポジウムの内容は、ナショナルトラスト運動全体についてのお話、英国ナショナルトラストの参加者の視点、トラストの可能性、維持管理や法律等多岐に渡るものでした。様々な方面の方からお話を伺う事で、「保存をしないことは悪」という価値観だけではない、「保存したくてもその所持者に資金がない」という状況はごく普通にあり得る事、その際に第三者による保存活動の手助けが必要だと痛感しました。

2 日目と 3 日目のシンポジウムの前には、ベンガラ塗りと拭き込みのワークに参加しました。実際に建物の保存活動に関わる事は初めてだったので、とても嬉しかったです。拭き込みの際至近距離で壁面を眺めた事で、建物にどんどん愛着が湧いてきました。さらに、2 泊 3 日宿泊し山荘のあちこちで時間を過ごし、たった 3 日間でしたが建物に大きな愛着を持ちました。保存活動をたくさんの人々で行うには、こうした同じ種類の「愛着」を共通して持つ事が大事になると感じました。またこうした活動を次世代に伝えていく必要もあり、私たちが対象建築物に対して理解を深める事、そして愛着を持つ事が大事になると感じました。アメニティ 2000 さんのこの活動を通して、保存活動は建築の学問的な面だけでなく、「人同士のつながり」によるものなのだと学びました。

最後に、ワーク、シンポジウムの準備と美味しい朝昼夕食を作ってくださいました、清水ご夫妻とアメニティ 2000 協会の皆様、本当にどうもありがとうございました。

参加記・2　山上の別天地での思い出

藤原豊一（京都大学大学院生）

この度のシンポジウムに参加してまず驚かされたのは、六甲の環境の良さである。西宮市内に 15 年ほど暮らした自分にとって、六甲は身近な存在であり、新緑、紅葉、雪化粧と、四季折々に装いを変える姿は、子供の目にも美しいものだった。

ただ、あまりにも近い存在だったゆえ、当地でレジャーを楽しむことはこれまでほとんどなかった。そのため、神戸市街から車でほんの 20 分の距離にも関わらず、緑豊かで心地よい風が吹き渡る六甲の素晴らしさに、初めて気付かされたのだった。

また、六甲山荘が外観のみならず、家具や調度品に至るまで、極力元のままで用いられていることも、特筆すべきことだと思われた。日差しを考慮した間取りや給仕部屋のアイロン台など、ヴォーリズ建築の趣向や先見性に感じ入るとともに、これらが手厚く保たれているのは、アメニティ 2000 協会の皆さんの尽力の賜物に他ならないのだと、深い感銘を受けた。

会期中も堅い雰囲気は全くなく、皆さんの心づくしの歓待には胸がいっぱいになった。ナショナルトラストの現状についての講演では、歴史的価値のある近代建築が失われゆく現況に憤る皆さんの真剣な表情に、襟を正す思いがした。

シンポジウムはどこを切り取っても、楽しく充実したものであった。家に帰ってからも、ベンガラに染まったTシャツを手に取っては、あの素晴らしいひとときを思い出している。

参加記３・

渡邊春菜（京都大学大学院生）

私は、文化財や建造物の保護に以前から興味があり、実際に日本で建造物の保存に取り組んでいる生の現場をのぞいてみたいと思い、今回のシンポジウムの参加を決めました。恥ずかしながら、ナショナルトラスト運動についての知識は浅いままシンポジウムの当日を迎えてしまったのですが、初日の理事長・事務局長のお話により、運動の歴史や活動の様子を深く

知ることができました。また、建造物や環境を守っていく活動の中で生まれる課題や、スタッフ・ボランティアの関係性など、各日のシンポジウムは考えさせられる内容ばかりで、とても勉強になりました。ワークでは、ベンガラ塗りと拭き込みの体験をさせていただきました。普段なかなか挑戦することない作業で、非常に貴重な経験となりました。ベンガラを塗り終わったあとの壁の輝きから、なんとも言えない達成感を味わうことができました。実際に自分の手を動かした経験は、今後忘れることのできないものとなったと思います。

最後になりましたが、会員の皆さまには、全日程を通して大変お世話になりました。今回のシンポジウムを通して得た知識や感じたことを、今後の自分の研究に生かしていけたら、と思っています。ありがとうございました。

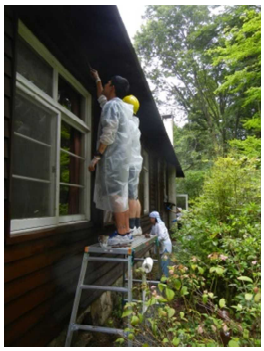
ご報告　**六甲山荘の板壁洗いとベンガラ塗り**　　7月25日（月）、8月6日（土）、9日（火）、10日（水）

4年に一度のベンガラ塗りです。まず7月25日に壁を水洗いして、汚れとカビをおとしました。つづいて8月6日にベンガラ塗りをしました。三井住友信託銀行から来てくれた9名のボランティアが大活躍して、軒裏までしっかり塗りました。最後にシンポジウムのワークとして、拭き込みをしました。皆さんからたくさん送っていただいたTシャツをほどよい大きさに切ったもので拭き込みます。化粧直しした山荘はすっきりしました。ぜひ出来栄えを見においでください。

＜参加記＞六甲山荘　体験記

高田 純直（三井住友信託銀行ボランティア）

先日、私はヴォーリズ六甲山荘での、ベンガラ塗りに参加させていただきました。ベンガラとは、日光による褐色がないなど経年変化に強く、防虫、防腐の効果もある日本に古来より伝わる天然塗料です。



朝一番で六甲山荘へ向かい、塗装を開始しました。夏の暑い日差しの中、脚立に上り不安定な足場でずっと上を見上げながら壁や屋根の裏側にベンガラを塗る作業は、想像以上に難しいものでした。汗水流しベンガラまみれになりながら、こうした細かい作業を繰り返すことで、建築から 80 年もの長い年月を経てもきれいな状態で保つことができているんだなと実感しました。

午前中の作業をこなし、疲労と充実感が混ざり合ったところで、今回も協会員の方が暑い中、おいしい昼食を作っていただきました。野菜の素材の味を活かしたラタトゥイユやトマトスープは、午前中の疲れも吹っ飛ぶほどのおいしさでした。本当に感謝の気持ちで一杯になりました。

その後午後の作業も終え、塗装が完成したときは、歴史あるヴォーリズ建築に携わることができたというありがたさと、私たちが塗ったベンガラで六甲山荘が今後さらに何十年も保存されることの偉大さを感じました。夏の暑い中大変な思いもしましたが、この経験は六甲山荘に塗られたベンガラのように、私の心にもいつまでも残っていくことと思います。

2016年度下期セミナー　　**静岡のヴォーリズ建築を訪ねる**　　建物の保存を考える in Tokyo

＜企画・東京地区企画委員会＞

静岡には二つのヴォーリズ建築があります。それを中心に戦災を免れた文化財の建築をめぐりましょう。

日時　**10月15日（土）**

集合　午前10時45分　JR静岡駅前　10番バス乗り場
解散　午後5時ごろ

行程　旧英和女学院宣教師館（昼食も）　→　旧マッケンジー邸

参加費　会員3000円　一般4000円　（昼食代こみ、交通費は別途自己負担）

定員　25名

申込締切　10月9日

詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをごらんください。

旧英和女学院宣教師館

親子でアート・・六甲山荘で草木染を楽しもう　　*＜トラストユースセンター・プログラム＞*

昨年の作品

日　時　　2016 年　10 月 8 日（土）午前 10 時　現地集合
会　場　　ヴォーリズ六甲山荘
参加費　　子ども（小学生以下）1, 500 円
　　保護者（会員）2, 000 円　　保護者（一般）2, 500 円
　　（いずれも材料費、昼食の石窯ピザ込み）
持ち物　　汚れてもいいエプロン、厚手のゴム手袋
定　員　　子どもと保護者のペア 10 組（20 名）
詳しくは同封の案内チラシあるいはホームページをごらんください。

2016 年度セミナー「足跡を探訪する」　第 5 回　　*＜主催：文化遺産継承協議会＞*

2016 年上期の最後のセミナーを次のように開催します。表題の杉本鉞子は六甲山荘のオーナーである小寺敬一氏の夫人花野さんのお母さんです。戦時中の一時期、六甲山荘に疎開しておられました。それもまじえて凛とした一人の日本女性の生き方を語っていただきます。

日　時　：９月１０日（土）　午後２時
テーマ　：「武士の娘・杉本鉞子の戦前と戦後――六甲山荘時代をはさんで」
講　師：　植木照代　（神戸女子大学名誉教授）
受講料：会員１,５００円　一般２,０００円
会場：草志舎（西宮市北昭和町 3-20、阪急西宮北口駅より徒歩３分）
定員：２０名（定員に達し次第締切ます）

ご報告　畑儀文の合唱教室　7 月 11 日（月）　草志舎
夏休み前のレッスンで、はりきって夏の歌を歌いました。

ご報告　セミナー（東京）7 月 23 日（土）　自由学園明日館
東京初のセミナーでしたが、27 名の参加者をむかえて盛会でした。会場の明日館、オプションの各建物もその歴史とともに印象深いものでした。心配された暑さもさほどではなくよかったです。企画運営にあたった東京地区企画委員会の皆さんにはいろいろと心配りをしていただき、おかげで無事に終了しました。

ご報告　ヨーロッパナショナル・トラストの旅　イタリア編　　6 月 27 日（月）～7 月 5 日（火）
天候にめぐまれ、事故・怪我もなく、すばらしい旅でした。世界遺産はもちろん、ナショナル・トラストのプロパティもそれぞれに印象深く、維持管理も行き届いていました。スタッフの人たちも自分たちのプロパティを誇りに思っている様子がよくわかりました。参加者の皆さんも満足のようで、はやくも次回のリクエストがありました。

NT のプロパティ、Villa dei Balbianello

＜参加記＞ヨーロッパナショナル・トラストの旅　イタリア編

一坂　千恵美

歴史が古く食と芸術の国、イアリア。一度は行ってみたいと思っていました。
世界遺産とナショナル・トラストを巡る見どころ満載の贅沢な旅でした。
イタリアのナショナル・トラストは FAI(FondoAmbienteItaliano・イタリアの文化財保護を目的とする非営利団体・イタ

リア環境基金･1975 年設立)です。FAI の会員になり FAI のプロパティを見学しました。古い時代に建てられ長い年月を経て持ち主が代わり、今に至っています。どこも年月をかけ費用をかけ復元されていました。豊かな自然、美しい絵画、食器、家具等、価値のある美しいものばかりでした。

たくさんの世界遺産を見学して、ローマ時代からキリスト教時代　ルネサンスと、長い歴史の重みを感じました。教科書や写真・映像でしか見たことがなかった作品や建物と対面できたことは驚きと感動でした。

ブドウ畑をみおろすホテルの夕食

ローマ・フィレンツェ・ミラノの大都市は古代からの遺物、美術館も多く、観光客も多いのでスリも多いと注意があり、緊張しながらの見学でした。

大都市を離れると観光客も減り、訪れた多くの街では石畳に細い路地、坂道があり街歩き気分で散策しました。窓辺のきれいな花や飾り、お店のショーウインドーもおしゃれでさすがイタリアの小さな町。とてもいい気分で楽しめました。

毎日よく歩きました。毎日お天気にも恵まれました。　歩いて、食べて、飲んで、祈って素晴らしい旅でした。

コモ湖から見た Villa dei Balbianello

受胎告知（フラ・アンジェリコ）

最後の晩餐（ダヴィンチ）

サンヴィターレ教会モザイク画

六甲山荘便り

6月、7月の六甲山荘

6 月の第 1 週の土曜日のスタッフはびっくり！なんと 64 名の来場者がありました。大阪工業大学工学部建築学科建築計画専攻　吉村英祐教授の教え子が大挙してこられたのです。「六甲山でのセカンドハウス」というテーマが出され、実例としてヴォーリズ六甲山荘が紹介されたとのことでした。次の週まであわせると 144 名が来られました。皆さん熱心な見学ぶりで、スタッフは忙しかったものの、やりがいがあったと楽しそうでした。どんなセカンドハウスの設計ができるのか、見てみたいですね。

7 月からは宿泊がはじまりました。平日の利用が 2 件、商業撮影も 2 件あり、ベンうなど、にぎやかな月でした。

来場者：289 名

7 月の山荘では多種のアジサイが咲きます

ほりだし市・・11月3日（木・祝）開催

毎年恒例のほりだし市です。皆さまからの手作り作品と寄贈品を募集しています。手作り品は特にパン、ケーキ、惣菜が人気です。皆さんが普段作っておられる家庭の味をぜひお寄せください。また地方のお取り寄せで「これは！」というお勧めがありましたら、お知らせください。

また前日の準備と当日に大勢のスタッフが必要です。みんなでにぎやかに一日を楽しみましょう！

出品申込書を同封いたします。ご出品の方、スタッフご参加の方はご連絡ください。
お待ちしております。

募金のご報告～6月7月

6月、7月に次の方々から募金をいただきました。
ありがとうございました。（敬称略）

＊文化遺産継承基金

《6 月 7 月合計　212,800 円　2016 年度累計 564,770 円》

アンサンブル・アメニティ結成10周年記念コンサート

いつも美しいハーモニーを聴かせてくれるアンサンブル・アメニティが結成されて10年になります。そこで次のように記念コンサートをひらきます。

月日　**2017年1月29日（日）午後**
場所　カトリック芦屋教会

詳しくは11月号でご案内いたします。
どうぞカレンダーに赤丸をつけてお待ちください。

ご案内

壱木呂の会漆芸展

協会の賛助会員である壱木呂の会は、いまや危機的な状況にある日本産漆を作り、使い、次世代へ継承する活動をしているNPOです。理事長の本間幸夫さんは漆芸作家であり、ほかにも多くの作家が理事となっておられます。このたび会員の作家さんたちが出品する漆芸展を開催されます。

会期：9月17日（土）～25日（日）　10時～17時
場所：東慶寺ギャラリー&ショップ（鎌倉）
ギャラリー：9月18日（日）14時半～15時半　要予約
日本産漆を語る＜作家有志＞

詳細は壱木呂の会ホームページ http://1kiro.jp/　をごらんください

タイ交流旅行へのお誘い

アメニティ 2000 協会はタイ・チェンマイの YMCA が山岳地方の小学校を対象に行っている教育プログラムを支援しています。2年に1回支援校の子供たちに会いにいくのがタイ交流旅行です。子供たちはもちろん学校あげて、村をあげての歓迎に気
すが、子供たちの笑顔を見ると、
ます。

次回は2,017年の2月です。2月のタイは日本の初夏のような気候で過ごしやすく、いろいろな花が咲く美しい時期です。詳しいご案内は11月号になります。あなたもタイの子供たちに会いに行きませんか。